



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/平成27年5月29日



西理事長が寄付金の目録贈呈



障がい者施設でパソコン解体

組合では、平成27年6月より、蛍光灯の共同回収を開始し、蛍光灯の共同回収をスタートさせる。事業所から排出される蛍光灯は産業廃棄物扱いとなるが、これまで、組合で実施している個別回収では、少量であれば燃えないごみとして収集し、清掃工場に持ち込んでいた。しかし、青森市のごみ処理が新たな清掃工場に移管されたことに伴い、ごみ搬入の取扱いが厳格化され、蛍光灯を燃えないごみとして清掃工場へ持ち込むことが禁止された。蛍光灯を産業廃棄物として排出するには、収集運搬並びに処分の委託契約がそれぞれ必要となり、手続きが煩雑な上、費用負担も発生する。

そこで組合では、新たな組合員サービスとして、蛍光灯共同回収の実験事業に取り組みこととした。回収日は偶数月の第3木曜日、午前9時から午後2時の間に組合員が卸センター事務局へ直接持ち込み、回収・処分する。同事業は無償で実施するが、問屋町内の事業所から排出された蛍光灯に限る。

リサイクル収益金を福祉団体等へ寄付

社会福祉に積極的に取り組む

組合ではこのたび、平成26年度のリサイクル回収事業で得た収益金を福祉団体等へ寄付した。

4月15日(水)には、空き缶及びペットボトル回収による収益金25,069円を(福)青森市社会福祉協議会へ寄付。組合の西理事長が同協議会の前田会長に目録を手渡した。また4月16日(木)には、齊藤環境対策委員長

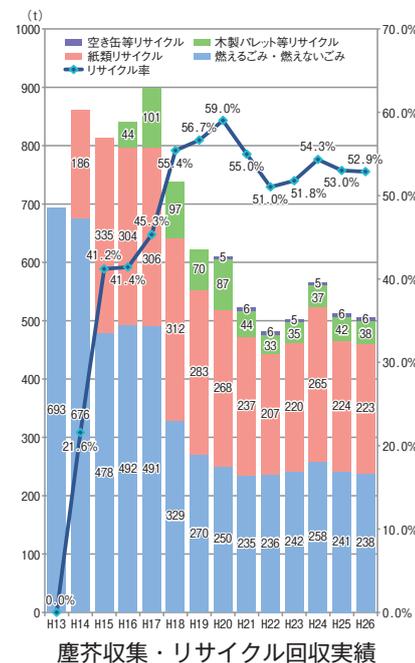
及び事務局が、パソコンリサイクル回収事業で得た収益金15,000円(組合員寄付9,900円、組合寄付5,100円)を、パソコンの解体作業等を行う青森市内の障がい者施設、(福)青森大学の園、(有)大裕、(株)青森福祉支援プラザの3社に寄贈した。

組合では、これまで団地内から排出されるごみの削減並

びに資源リサイクル推進を図るべく、リサイクル事業に積極的に取り組んできた。平成14年から紙類リサイクル回収に着手、平成16年には木製パレット、平成20年には空き缶・ペットボトルのリサイクル回収もスタート。その結果、ごみの排出量は大幅に減少し、リサイクル事業取り組み前の平成13年度の693tが、平成26年度には238tと3分の1となり、リサイクル率も50%を大きく上回っている。

また、パソコンリサイクル回収も平成25年12月に実験事業がスタートし、昨年度から本稼働へ移行、1年あまりで1,490台がリサイクル回収された。同事業は資源リサイクルはもちろん、企業の処分費用負担軽減並びにパソコンの解体作業を行う障がい者

蛍光灯共同回収開始のお知らせ



の雇用創出にも一役買っている。近年、企業の環境活動への取り組みは企業の社会的責任(CSR)の一部として重要視されている。組合でも資源リサイクルに積極的に取り組むほか、CSRの一環として、リサイクル回収の収益金を社会福祉に役立ててもらうため、寄付活動も継続している。

青森県は1人あたりのごみ排出量が全国ワースト2位、リサイクル率も13.7%で全国ワースト4位となっている。ごみ減量・資源化は緊急の課題となっており、組合の取り組みは先進的な事例として注目されている。

第48回通常総会の提出案件と承認 第1回理事会

第48回通常総会の提出案件や蛍光灯共同回収の実験事業の実施などを審議する平成27年度第1回理事会が4月22日(水)、問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは、リサイクル回収収益金の寄付の実施、平成26年度塵芥収集及び紙類リサイクル等の回収実績、問屋町ビジネススクールの平成27年度上期カリキュラムについて報告を行った。

主な案件審議は次のとおり。
案件一 環境対策委員会から

26年度の交通事故 実態調査結果まとまる

青森交通安全協会問屋町支部(多田支部長)が会員を対象に実施した、平成26年度の交通事故実態調査結果(142社・回収率100%)がまとまった。

調査の結果、無事故会員数は111社、78.1%で、昨年度の76.3%をわずかではあるが上回った。一方、事故件数に目を向けると、加害事故件数は、昨年50件であったのが66件と16件も増加した。事故要因については、後方不注意が最も多く18件(27.3%)、前方不注意の14件(21.2%)、右



団地内交通事故発生箇所 (26年度)



27年4月にも第二問屋町北口で事故発生

左折時の不確認12件(18.2%)を合わせると44件(66.7%)となり、これまでの調査結果と同様、確認不足が事故要因の大部分を占めた。
また、問屋町内で発生した交通事故は、調査結果と組合が把握している事故を合わせ



大星神社拜殿で祈年祭

の意見について
蛍光灯共同回収の実験事業の実施が承認された。
案件二 組合施設の賃貸について
案件三 平成27年度卸商業団地機能向上支援事業への応募について
四 組合員跡地買取資金の借換えについて
五 第48回通常総会の提出案件について
六 平成27年度第2回理事会の日程等について

理事会終了後には、青森問屋町配送(株)の第1回取締役会、青森卸センター(株)の第1回取締役会も開かれ、提出案件が全て原案どおり承認された。
今年度の合同清掃がスタート
今年度1回目となる問屋町合同清掃が4月9日(木)に行われ、222名が参加した。同活動が始まった平成14年の1回あたりの平均参加者数は問屋町、第二問屋町合わせて40名ほどであったが、平成18年度には100名を超え、平成25年度には200名を上回るなど、年々活動の輪が広がっている。参加者の増加に比例して団地内のごみの量は大幅に減少。参加者も「本日に団地内はごみが減っていた。この活動の様子を目にしていれば団地内で働く人はもちろん、道行く人もごみを捨てられない」と話すなど、同

大星神社祈年祭・観桜会

5月1日(金)、大星神社において、祈年祭及び観桜会が開催され、組合員をはじめ、近隣住人や関係者など80名あまりが参加した。組合からは西理事長をはじめ、藤本専務理事、青森問屋町経営同友会や問屋町支店長・所長連絡会の会員らが参加した。
同神社は県内でも有数の歴史深い由緒ある神社で、卸団地造成時から施設の地鎮祭を依頼するなど団地の氏神様として密接なつながりがある。
祈年祭では五穀豊穡や地域氏子の安泰と繁栄などが祈願され、終了後には観桜会を開



合同清掃 (問屋町)



合同清掃 (第二問屋町)

活動が団地内の美化意識向上に貢献している。
問屋町合同清掃は、4月から10月までの毎月第2木曜日、全7回開催。朝8時から20分程度、問屋町全域のごみ拾いや草刈りなどを行う。天候による実施の有無は、当日

朝、組合ホームページや公式フェイスブック、ツイッターにて公開する。
同活動へ年5回以上の参加で功労賞を受賞。功労賞を10年連続で受賞すると問屋町合同清掃10年賞として組合員新年会で表彰される。

営業用食器・厨房設備・器具専門商社
株式会社 プリモ
青森店 青森洋食器
〒030-0113
青森市第二問屋町3丁目3番8号
Tel 017-739-9355 Fax 017-739-9359

食品・酒類卸
丸大堀内株式会社
〒030-0131 青森市問屋町2丁目15番22号
電話 017-738-4311

ビジネスブックカフェ通信

Vol.4

今回紹介するのは、高島宏平(著)『ぼくは「技術」で人を動かす 今いるメンバーで結果を出すーチームリーダーのレシピ』(ダイヤモンド社) ¥1,500円(税抜)。

「生鮮食品のネット通販」ビジネスを世界で初めて成功させた著者によるリーダーシップ論です。
2013年にマザーズに「オイシックス」を上場させた起業家の著者が創業時に最も頭を悩ませたのは「人」の問題だったといえます。世界

で初めての事業に突き進もうと思ふもののチームの気持ちはバラバラ、離職率も高く、自分にはリーダーシップがないと悩みます。
そこで著者はリーダーシップに必要な「人間性」を磨くことはすぐに難しいが、「スキル」を真似することは自分にもできると気がつきます。
そこで効果のあった実践的ですぐに役立つスキルが61の項目にまとめられています。
「学ぶ事はまねること」「習うより慣れろ」などと言われますが、見よう見まねでリーダーシップのスキルをまねるうちに人間性の方もそのうち追いつくかもしれませんね。
(聖辛・評)



業務報告

主要事項

- 4月
 - 9日▽第1回問屋町合同清掃会幹事会
 - 10日▽東北卸商業団地連絡協議会幹事会
 - 13日▽問屋町支店長・所長連絡会第1回幹事会
 - 14日▽あおもりコンピュータ・カレッジ入学式
- 5月
 - 22日▽青森問屋町経営同友会第1回役員会
 - 15日▽第1回三役会
 - 16日▽金融審査会
 - 19日▽南東北総合卸センター(協)伊藤理事長「お別れの会」
 - 22日▽会計監査
 - 22日▽青森問屋町配送(株)第1回取締役会
 - 25日▽大青工業(株)修祓式
 - 28日▽青銀金友会新頭取を囲む会
 - ▽青森問屋町経営同友会第2回役員会
- 6月
 - ▽問屋町ビジネススクール
 - 22日▽営業研修(現状把握編)

経済雑感

第八十八回

青森公立大学 学長 香取 薫

前号に引き続き、青森公立大学の香取学長による経済雑感をお送りする。

《地域無線サービス普及促進検討会の設立について》

私が会長を務めることとなった、本地域無線サービス普及促進検討会(以下、検討会)は、地域事業者が「地域の公共の福祉の増進に寄与」するために、広帯域移動無線アクセシビリティシステム(以下、地域BWA)を活用して公共サービスを行うために必要な施策等について議論や情報交換を行うことを目的として2014年8月に設立されました。2014年12月19日現在

71社の地域事業者等が参画し、有効な公共サービスの在り方やそのために必要な処置等について議論を続けています。地域毎の特性はあるものの、地域事業者がおかれている事業環境が厳しいという事は共通しています。地域事業者の通信サービスは、超高速ブロードバンドの普及や固定・移動の融合等、技術の進展に対する対応のみならず、地域ライフラインとしてのネットワークの強靱化(二重化)や地域防災システムへの高度化への対応等も求められています。それらの対応は、光や同軸といった固定アクセシビリティではなく無線ブロードバンドの活用が不可欠です。そのような状況においても、多数の地域



青森公立大学 学長 香取 薫 氏

で地域BWAサービス展開されるには至っておらず、各地域事業者がそれぞれ独自にサービスを立ち上げて維持運営していくことが困難である状況となっています。
本検討会では、これら地域事業者からの様々な声・ニーズを集約し、全国事業者とも連携することにも念頭に、地域に根ざしたサービスを検討し、その実現に向け助言・サポートをしています。また、それらの実現のため、課題となる制度問題や解決方法等についても情報発信をしていきます。
2014年10月の高度化に関する制度改正を踏まえ、本検討会参加者に対して地域BWAへの参入時期、方法等についてア

ンケートを実施いたしました。(2014年10月実施)71社中41社から有効回答を得ました。
地域BWAで事業展開を行う上での課題について本検討会メンバーへアンケート調査したところ、設備を構築し・運用することに關する課題を挙げた事業者が多数となりました。
それらの課題を解決することができれば、その技術の応用例として従来より安価で高性能な防犯システムを構築し、Wi-Fiを同時に整備することも可能であると考えています。
今後、検討会で実証実験を行い、法制度の改正に向けて研究を続け、できるだけ早期に実用化できるよう努力していきたいと考えています。
(完)

明日を創り 明日をひらく

教育・福祉施設・OAシステムトータルプランニング

教育設備品・理化学機器・視聴覚機器・保育用品
介護福祉機器・文具事務機器・OA機器

OOE株式会社 大平教材社

〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目5番33号
TEL 017(762)3111(代) FAX 017(762)3130
E-mail: oodaira@infoaomori.ne.jp
http://www.infoaomori.ne.jp/oodaira/

時代のニーズに応える **カネイ**

OA機器・事務機器・文房具等
ビジネス関連商品の総合商社

株式会社 **カネイ** 青森支店

第2問屋町 ☎ 017 (739) 9001(代)
FAX 017 (739) 9011

本社 八戸市 支店 十和田、むつ、弘前
店舗 八戸番町店、下田店、弘前店

雑貨のあるガーデンショップ

Leaf

リーフ (by だいいちぞうえん)

お庭の設計(CAD)・施工・管理

青森市第二問屋町1丁目4-4 TEL 080-6058-3881

増税でも初乗り620円

一番タクシー

～全車クレジットカード決済可能～

配車専用 ☎017-739-5500

大青工業が新社屋竣工及び創立65周年を迎える

組合員である大青工業(株) (服部國彦社長) の新社屋がこのほど完成した。

同社は、昭和25年5月に青森市内で設立、昭和45年6月に問屋町へ本社を移転し、今年で創立65周年を迎えた。

4月25日(土)には修祓式並びに創立65周年と新社屋竣工を記念した祝賀会が盛大に行われ、組合からは西理事長と藤本専務理事が出席し同社の新たな門出を祝った。

倉庫を併設する形の新社屋には、事務室や応接室、会議室、研究室のほか、社内での商品企画や商品提案の場として

団地企業訪問

今回の組合員訪問は、今年の4月に所長に就任された(株)川本製作所青森営業所の齋藤所長にお話を伺った。

同社は、名古屋市内に本社を構える、大正8年創業のポンプメーカーで、ビル設備から家庭用まで、ポンプの製造・販売・修理・工事を行う。国内に10の支店、110の営業所・駐在所と1万余りの販売店を有し、家庭用・設備用給水ポンプ、消火用ポンプ等は国内シェアトップを誇る。同社のポンプは一般家庭への給水からインフラ、公共設備に至るまで、社会の様々なフィールドで活躍。生活して



大青工業新社屋

て大型ディスプレイが設置されたプレゼンテーションルームも完備。また、照明器具や壁紙、備品など、ひとつひとつの細部に至るまでこだわり、部屋ごとに配色が異なるなど、デザイン性の高い内装となっている。

倉庫は、これまで複数の施設にあった水溫設備等が集約され効率化が図られたほか、内部は区画毎に柱の色使いに変化を持たせ、無機質なイメージがある倉庫内を一新する空間づくりがなされている。新社屋の玄関横には、同社に20年以上勤務した社員の氏名が刻まれた石碑が建てられ、会社の発展に尽力した方々への敬意と感謝の意を表したものとなっている。



盛大に執り行われた祝賀会

また、同社の服部國彦社長が、科学技術分野の文部科学大臣表彰で、科学技術賞を受賞。4月15日には東京で授与式が行われ、服部社長に表彰状が授与された。

今回の受賞は、同社が冷蔵と冷凍の間の温度領域である「水溫」の技術を長年にわたる研究を続け、水溫技術を用いた「生鮮食品の鮮度保持と熟成に資する水溫貯蔵庫システム」の開発についての業績が評価された。



川本製作所 所長 齋藤 俊介 氏

いく上で必要不可欠な水を安定的に届ける役割を担っている。現在の業界の動向について聞くと「中央ではオリンピック関連、岩手や宮城、福島では震災復興関連で建物の新築が進み、それに付随してポンプの需要は高まっています。

一方、地方に目を向けると、新築物件が少なく、厳しい状況が続いています。しかし、現状を悲観し、ただ手をこまねいて見ていくわけにはいかないので、今は既設ポンプのメンテナンスや、より省エネ効果の高いポンプへの入替提案に力を入れています。

非常に困ります。当社は一社一業。ポンプの専門メーカーとして、「大切な水をあなたへ」をスローガンに、お客様になるべくご不便をおかけしないよう、緊急時の素早い対応を心がけています。簡易な修理であれば、営業マンが修理・対応させてもらいます」と話した。

「水は出て当たり前、出ないと面、若さの勢いだけにならない

「また、当営業所は、所員が若くフレッシュでエネルギーに溢れているのが長所ですが、反

「自分も含め、先人たちの培ってきた歴史を大事にし、経験や知恵をしっかりと継承していきたいです」と語る。プライベートについて話が及ぶと「趣味らしい趣味はないのですが、スポーツを観るのが好きです。特にモータースポーツが大好きです。あまり現地で観戦することはできませんが、CS放送で楽しんでいます」と語る。

(36歳)

編集後記

昨年度本格稼働したパソコンリサイクル回収事業では一年あまりで1,490台がリサイクル回収されました。少額でも福祉団体に寄付できたことは望外のことでした。▼組合員・大青工業(株)さんが色彩デザインに非常に優れた新社屋倉庫を新築されました。その顕彰碑があったことは感動的でした。▼転話題。前号に引き続き経済学者・浜田宏一氏の『世界が日本経済をうらやむ日』から浜田先生の反リフレ派の主張への主な反論を紹介いたします。③「デフレいいこと論」佐々木融氏「デフレはモノの値段が下がるので正規賃金の消費者には得である」▲反論「デフレ下において雇用は伸び悩み、消費者であると同時に労働者でもある国民はデフレで収入が減り続けた」▼④「デフレ大丈夫説」池尾和人氏「戦前の2ヶタデフレに比べ1%程度のデフレは問題がない」▲反論「デフレは1%未満でも雇用状況を悪化させる」15、24歳の若年層失業率は深刻。2010年では10.8%(1.25%のデフレで)⑤「アベノミクス・バブル説」浜矩子氏「現在の株価上昇はバブルだハイパーインフレが起きる」▲反論「日本の株価のPER(株価収益率)は15.17倍程度であり主要国の水準並み」日本のPBR(株価純資産倍率)は1.5倍弱で他の主要国と隔たりがない(世界のPBRの平均は2.3倍)日本は低いくらいだ」▼と先号から五つの反論を紹介しました(藤本)

一般財団法人 青森市産業振興財団

限りなく夢が広がるイベントホール

会議・研修スポーツ・レクリエーション施設



青森産業会館 〒030-0113 青森市第二問屋町四丁目4-1 TEL 017 (739) 1811 FAX 017 (739) 1800



青森市はまなす会館 〒030-0131 青森市問屋町一丁目10-10 TEL 017 (738) 4821 FAX 017 (728) 2162